



MA日本キックボクシング連盟
ODESSEY-3
9月15日◎東京・北沢タウンホール

前日、北沢でのJ-NETは…



●9月14日、北沢タウンホールでのJ-NETWORK「MAKING THE ROAD-IV」から。タイの第2の「オカマちゃん」ジェネット・バヤックランポー（写真）が、泉ユースク（山木）と日本初ファイト。派手なパフォーマンスで注目されるも、判定で敗れた。●元MA王者・天野哲成（右・マイウェイ）は、五十嵐幹志（ソーチカラダ）から右ストレートでダウンを奪うなど3-0で判定勝利。「9-29のF・前沢VS増田博正の勝利者と闘いたい」と天野はアピール。●メインのヘビー級対決は、鈴木ミツル（右・飛鳥勢）が長谷川康也（アクティブJ）に、4RTKOで勝利。体力を消耗してのレフェリーストップとは…

●セミ/59歳契約3分5R
●加藤督朗（PHOENIX）66歳、22歳
（2R1分56秒TKO）
●船木鷹虎（仙台青葉）66歳、40歳



●6月にMA日本ミドル級王座奪取に失敗したマグナム酒井（左・土道館）が井手本高司（八街）を相手に再起戦。1Rこそ井手本のローに苦しんだが、2Rになるとローで反撃。1度ダウンを奪ったあと、2R1分30秒、レフェリーストップ勝ちを飾った

●MAライト級1位の木村允（土浦・左）は、仙台青葉の笹羅崇裕と激突。1Rから笹羅の鼻骨を折るなど優勢に試合を進めたが、粘る笹羅を倒すことはできず。判定勝ちこそ収めたものの、課題の残る一戦だった



●SBホーク級5位のホセイン・キャリミラド（湘南/イラン・右）とランポー（東金・モンゴル）の交流戦は一進一退の打ち合いの末、ホセインが2-0の判定勝ち。シュートボクシングの意地を見せた



●2Rまでは一方的にMAウェルター級5位の萩野兼嗣（ビクトリー）を追い込んだMAライト級王者の井上吉（山木）だったが、3Rからは大混戦。結局、萩野を仕留めることはできなかった。「いやあ、またやっちゃいました」と頭をかく井上だったが、11月3日には木村允が砂田政彦を挑戦者にタイトマッチを行なう予定

対戦相手は日本キック界最年長（40歳）の船木鷹虎だったが、勝負は一方的だった。なんと加藤が1Rに放った右ハイによって、船木は左腕を骨折してしまっただ。それでも試合を続けた船木も凄いが、2R中盤、加藤の右ヒジによって左目尻を斬られるとジ・エンド。22年という長いキャリアの中で、試合中に骨折したのは初めてというだけに、船木はショックを隠しきれなかった。

後ろ4つのマッチメイク・バリエーションは横一線だったが、その中から突出した存在感をアピールしたのは加藤督朗だった。誰かおわかりか。前名はスネーク加藤。昨春秋、沖縄で復帰した時にはプロモーターに勝手にハブ加藤と名付けられた元MA日本ライト級王者だ。久しぶりに東京で見ると加藤は見事にウェルター級の身体に変身していた。かつてスネークのニックネームが似合ったヒョロヒョロしたところなど微塵も感じられない。

MA日本キックと北沢タウンホールの相性はいい。5月の大会に続き、今回も場内は超満員。壁伝いに立ち見の客がズラリと並んでいた。後楽園よりもキャバが小さいとはいえず、観客がすし詰め状態の会場はいいムードになりやすい。対戦カードも悪くなかった。現役日本王者やトップランカーが勢ぞろい。在日とはいえず、イランVSモンゴルという異色の国際戦が組めるのは、世界広しといえどもコシかない。

それでも加藤は「調子が悪かった」とシヨンポリ。自分の蹴りが船木の腕を粉砕したことを知らなかったのだ。忘れてはいけない、蛇は脱皮することを。（布施）



船木鷹虎（仙台青葉）の左腕を骨折させた加藤の右ミドル。試合後、病院へ直行した船木は「片手だけで受けたのがいけなかった。でも（現役は）続ける」と気丈なコメント。加藤の次の試合は10月16日、同じ北沢タウンホール。対戦相手はベン・バートンが囃されている

凄いぞ、加藤督朗。 右ミドルで船木鷹虎の左腕を粉碎！ スネークからの脱皮